

平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 旭 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問紙)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年	国語	162人	社会	162人	数学	162人
	理科	162人	英語	162人		

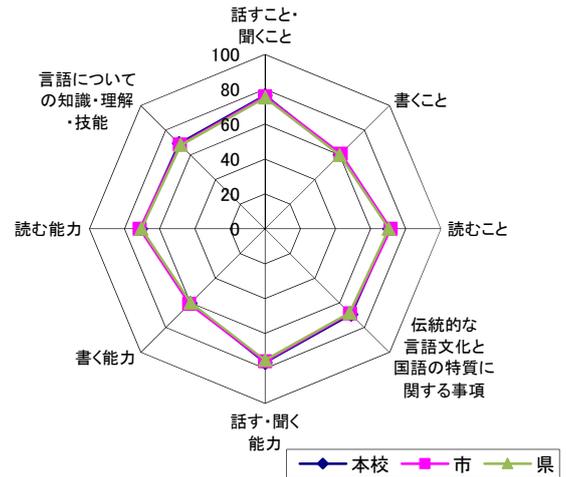
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立 旭 中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	76.6	76.0	75.2
	書くこと	60.2	60.9	59.9
	読むこと	70.8	71.4	70.4
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.3	68.5	68.0
観点	話す・聞く能力	76.6	76.0	75.2
	書く能力	60.2	60.9	59.9
	読む能力	70.8	71.4	70.4
	言語についての知識・理解・技能	69.3	68.5	68.0



★指導の工夫と改善

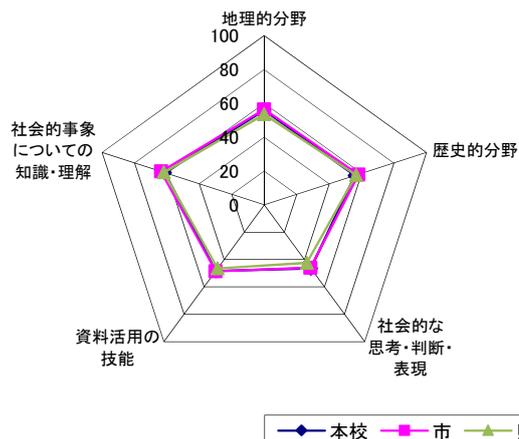
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○市の平均より0.6ポイント上回っている。特に「分かりやすく伝えるために話の構成を考える」問いが、市の平均より2.1ポイント上回った。 ●「相手の話を聞いて自分の考えとの共通点と相違点を整理する」問いが市の平均より1.8ポイント下回った。	・相手意識や目的意識を持ちながら話を聞き、自分の考えや表現に生かす活動に取り組ませる。 ・グループ活動では、お互いの体験や考えを出し合って整理したり、相手の話を聞き、自分の考えを話したりさせる。 ・聞き取りテストを行い、聞き方のポイントやメモの取り方に慣れさせる。
書くこと	○「提案することをまとめて書く」問いが、市の平均より6.6ポイント上回った。 ●市の平均より全体で0.7ポイント下回った。特に「メモを基に活動報告書にあてはまる言葉を書く」問いの正答率が8割に達しなかった。	・普段から、相手意識・目的意識を明確にして自分の考えを書く活動を取り入れる。 ・テーマを設定して情報収集を行い、調べて分かった事実や自分の考えが明確に伝わるように、構成を工夫して書く活動を行う。 ・制限字数の中で、自分の考えをまとめる問題に取り組ませる。
読むこと	○説明的文章も文学的文章も「自分の考えをもつ」問いの正答率が市の平均より、4ポイント上回った。 ●市の平均より全体で0.6ポイント下回った。特に、「物語の描写の説明」の問いの正答率が低く、市の平均より、6.2ポイント下回った。	・説明文では、段落どうしの関係に着目して、文章の構成を捉え、内容を読み取らせる。 ・接続表現に着目し、論のすすめ方を捉え、筆者の主張を読み取らせる。 ・人物や情景の効果的な描写に着目して、作品を読み深めていくことを指導する。 ・登場人物の言葉や行動がどんな意味をもっているのかに注意し、作品を読み味わっていくことを指導する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○市の平均より、全体で0.8ポイント上回った。漢字の読みよりも書きの方が正答率が低いものの、市と比較すると、書きの正答率が5ポイント以上上回った。 ●熟語の組み立ての問題が、市の平均より2ポイント下回った。	・漢字テストを定期的に行い、漢字を書けるようにする。 ・様々な語句に触れ、意味の分からない用語はきちんと調べさせる。 ・問題練習を行い、様々なタイプの問題に触れさせる。 ・1年生からの復習を行い、文法に対する苦手意識を持たないよう指導する。

宇都宮市立 旭 中学校 第2学年【社会】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理的分野	55.8	56.4	53.5
	歴史的分野	55.9	58.0	56.6
	社会的な思考・判断・表現	46.4	46.1	42.5
	資料活用 of 技能	48.4	48.6	46.5
	社会的な事象についての知識・理解	61.3	63.6	61.9



★指導の工夫と改善

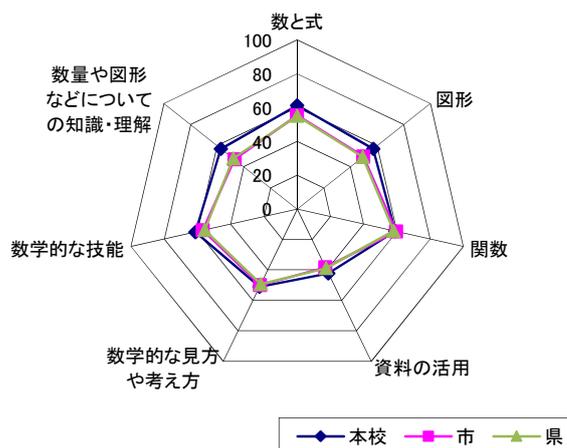
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	<p>○適切な地図を選択し、示された地点の方位を答える問題の正答率が県平均を6.0ポイント、市平均を3.7ポイント上回っており、適切な資料を選択する能力が身に付いている。</p> <p>○1つのグラフからアメリカの工業の変化を考察する問題の正答率が県平均を12.4ポイント、市平均の7.9ポイント上回っており、資料を読み解く能力が身に付いている。</p> <p>●基礎に関する問題は、県平均を0.5ポイント、市平均を2.2ポイント下回っており、基礎の定着が図れていない。</p> <p>●ブラジルの森林が伐採されている理由を複数の資料から読み取り、理由を記述する問題の正答率が県平均を4.3ポイント、市平均を5.3ポイントと大きく下回った。</p>	<p>・1つの資料を読み取る能力は県や市の平均を大きく上回っているが、複数の資料を読み取り、考察する力が身につけていないため、複数の資料を提示し、事象を考察させるような授業を行う。</p> <p>・基礎に関する問題の正答率が県や市の平均を下回っているため、基礎知識を定着させるために、用語の確認などを行う。</p>
歴史的分野	<p>○国風文化の特徴を答える問題の正答率が県平均を7.7ポイント、市平均を4.8ポイント上回っており、国風文化が日本独自の文化であることを理解することができていた。</p> <p>○室町時代におこった戦乱の名称を答える問題の正答率が県平均を18.7ポイント、市平均を21.7ポイントと大きく上回っており、応仁の乱の前に起きた事象や乱の内容を理解できていた。</p> <p>●古代における九州での警備に関する負担の名称を答える問題の正答率が県平均を8.6ポイント、市平均を10.8ポイントと大きく下回った。</p> <p>●天平文化が栄えた頃の天皇を答える問題の正答率が県平均を8.5ポイント、市平均を9.7ポイント下回った。</p>	<p>・知識理解の内容に大きな差があり、特に税制や各時代の特徴とその当時の天皇を関連付けて理解できていない。政治の中心人物とその人物が行った政策を関連付けて理解させる。</p> <p>・各時代で政治の中心地が理解できていないため、地図を活用し場所と合わせて理解させる。</p>

宇都宮市立 旭 中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	61.3	55.4	55.0
	図形	57.1	49.8	49.2
	関数	59.1	59.6	58.0
	資料の活用	42.2	38.3	38.9
観点	数学的な見方や考え方	51.0	50.0	49.3
	数学的な技能	61.2	56.7	55.7
	数量や図形などについての知識・理解	57.2	47.0	47.9



★指導の工夫と改善

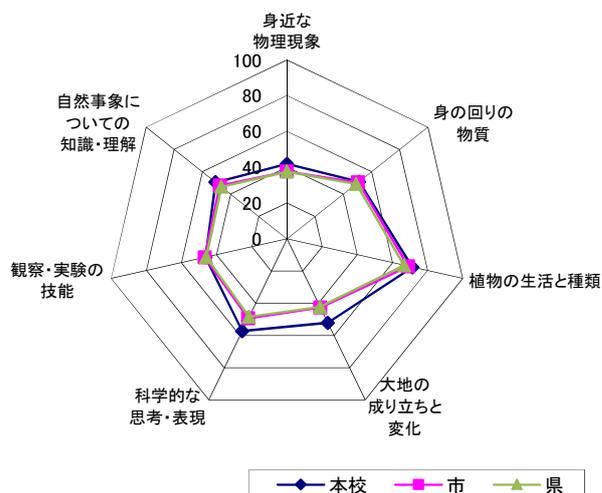
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>○数と式の領域は、市平均より5.9ポイント、県平均より6.3ポイント上回った。特に、自然数を選ぶ問題では市平均よりも32.6ポイント高く、定着を図ることができている。</p> <p>●基石全部の数を求められる理由を書く問題では、市平均よりも6.3ポイント、県平均よりも5.0ポイント下回った。</p>	<p>・語句については、言葉だけでなくその意味も理解させていく。</p> <p>・授業の中で、理由を考える課題や書かせる課題を与え、考えることに慣れさせる必要がある。</p>
図形	<p>○図形領域は、市平均よりも7.3ポイント、県平均よりも7.9ポイント上回った。特に、面積を半分にする点を作図する問題では、市平均よりも12.9ポイント、県平均よりも15.1ポイント上回った。</p> <p>●円柱の側面の横の長さを求める問題では、平均を上回っているものの、県平均との差が1.8ポイントとあまり大きくはない。</p>	<p>・作図について、垂直二等分線や角の二等分線などの基本的な内容だけでなく、それらを使った問題にも数多く取り組ませる。</p> <p>・空間図形の問題については、ICTや立体模型、展開図などを用い、視覚的にとらえて理解させる。</p>
関数	<p>○面積が一定の長方形の縦と横の関係を式で表す問題では、市平均よりも4.9ポイント上回った。</p> <p>●関数領域全体において、市平均よりも0.5ポイント上回った。また、与えられた座標に合う点の位置を選ぶ問題では、市平均よりも1.4ポイント、県平均よりも1.1ポイント下回った。</p>	<p>・式や表、グラフを使った表し方をそれぞれ身に付けさせていく。また、これら1つだけでなく、複数のものを関連させて関係を表せるようにしていく指導が必要である。</p> <p>・具体的な事象を用いて、式や表・グラフで表せるよう指導する。</p>
資料の活用	<p>○度数分布表からある階級の相対度数を求める問題では、市平均よりも10.8ポイント、県平均よりも11.8ポイント上回った。</p> <p>●度数分布表から中央値が含まれる階級を求める問題では、市平均よりも4.3ポイント、県平均よりも5.6ポイント下回った。</p>	<p>・代表値については、語句の名前とその意味だけでなく、求め方も身に付けられるよう指導する。</p> <p>・度数分布表から代表値を求める問題にも取り組ませていく。資料から代表値を求める場合と度数分布表から代表値を求める場合では、求め方が異なる場合があるので、その違いを比較しながら理解を図る。</p>

宇都宮市立 旭 中学校 第2学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	41.8	37.6	37.5
	身の回りの物質	51.2	50.5	49.1
	植物の生活と種類	71.4	69.0	66.6
	大地の成り立ちと変化	52.2	42.7	42.2
観点	科学的な思考・表現	57.3	49.4	48.5
	観察・実験の技能	46.3	46.8	45.9
	自然事象についての知識・理解	50.7	47.6	46.5



★指導の工夫と改善

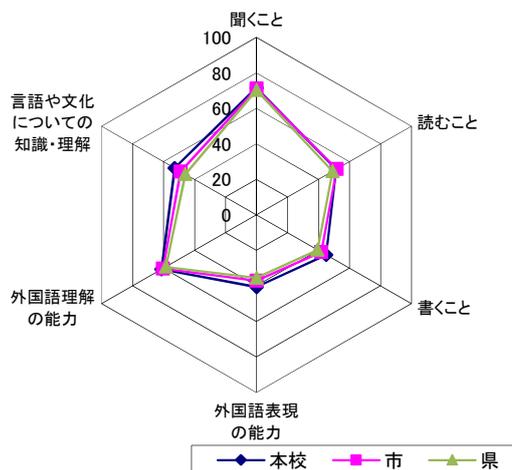
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○領域正答率は41.8%と市や県を上回った。特に「光と音」におけるスクリーンに映る像の向きを考える問題や、音の波形を比較し、高い音を選び、その理由を説明する記述の問題では、県と市を15ポイント以上上回った。 ●「力と圧力」は、県と市の平均を0.8ポイント下回っており、物体が机を押す力の表し方の正答率は、県と市よりも特に低い。	・物体にはたらく力について作図の時間を多くとり、作用点をとる位置や力の種類、書き方を理解させる。 ・音の波形を比較する問題は、正答率も高いが、学力別層の差も大きい。D層の正答率は5.6%と内容別では最も低いため、演示実験を行うなどして、視覚的に提示し、理解させる。
身の回りの物質	○領域正答率は、市や県を上回った。密度を求める問題や、質量パーセント濃度を求める計算問題は県を5ポイント以上上回り、特に密度をもとに、物質を推測する問題では、県を12ポイント、市を9ポイント上回った。 ●ガスバーナーの適切な操作方法についての問題では、県・市より12ポイント程低い。	・計算問題では、正答率はいずれも県や市を上回ったが、学力別層の差も大きい。密度を求めたり、そこから物質を推定したり、質量パーセント濃度などの計算問題の正答率は0%である。問題演習の時間をとるなどして、D層の底上げを図る。
植物の生活と種類	○領域正答率は、71.4%と市や県を上回った。光合成に日光が必要かを調べるために比べる部分を選択する問題では、県を9.1ポイント、市を6.4ポイント上回った。また、シダ植物のなかまの増やし方の問題では、県を12.6ポイント、市を8.9ポイント上回った。 ●双子葉類の葉脈、根、茎の断面の特徴を選択する問題は、県を0.4ポイント、市を4.3ポイント下回った。	・双子葉類と単子葉類のからだのつくりの特徴を、トウモロコシやそれぞれ実際に観察する時間を設け、葉脈や根、茎の断面、子葉の数など関連付けて理解させる。
大地の成り立ちと変化	○領域正答率は52.2%と、県や市を10ポイント近く上回った。「火山と地震」における岩石のつくりの名称や花崗岩のできる場所を推測する問題は、県や市を上回っており、特に実験から花崗岩のでき方を推測する記述の問題では、県を24.6ポイント、市を23.5ポイント上回った。 ●全体を通していずれの問題も県や市を上回ったが、「地層の重なりと過去の様子」では、領域内での正答率が他に比べて低い。	・地層の重なりや化石についての知識など、デジタル教材を利用して視覚的に印象付けることで理解させる。 ・正答率は高いが、学力別層の差が最も大きい領域である。重要語句などを関連付けて理解できるよう、チャート図などを利用することで理解させる。

宇都宮市立 旭 中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	71.6	71.1	70.2
	読むこと	51.4	51.8	49.1
	書くこと	44.9	41.8	39.4
観点	外国語表現の能力	40.6	37.1	35.5
	外国語理解の能力	61.3	60.4	58.5
	言語や文化についての知識・理解	52.9	49.0	46.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○平均正答率は71.6%で、県平均より1.4ポイント、市平均より0.5ポイント上回った。</p> <p>●設問別正答率を見ると、「疑問文の聞き取り」が、市の平均より0.1ポイント下回った。</p>	<p>・授業において、「対話文の聞き取り」を中心に、「聞き取る活動」に取り組ませる。</p> <p>・スキットなど、ペアで対話させる活動を通して、対話文の音声指導の充実を図る。</p> <p>・現在実施しているワークシートを使った聞き取り活動に加えて、指導書に掲載されている資料も活用して、対話文の聞き取り活動の機会を増やす。</p>
読むこと	<p>○平均正答率は51.4%で、県平均より2.3ポイント上回ったが、市平均より0.4ポイント下回った。</p> <p>●設問別正答率を見ると、「まとまりのある英語の読み取り」が、県平均より8.8ポイント、市平均より9.4ポイント大幅に下回った。</p>	<p>・「まとまりのある英語の読み取り」では、様々な分野の長文に触れさせ、物語のあらすじや説明文の要点をとらえたり、伝言や手紙などから書き手の意向を理解したり、いろいろな情報を読み取るなどして、英語の読み取り能力の向上を図る。</p> <p>・英語を読み取る力を付けるためには、語彙力向上が不可欠であるので、家庭学習等で単語練習の機会を増やす。</p>
書くこと	<p>○平均正答率は44.9%で、県の平均より5.5ポイント、市平均より3.3ポイント上回った。</p> <p>●設問別正答率を見ると、「場面や条件に応じた英作文」中でも『対話文に当てはまる応答文を書く』が、県平均より0.9ポイント、市平均より1.8ポイント下回った。</p>	<p>・生徒の身近な話題など、様々な場面やテーマに沿った英作文に取り組ませ、書く能力の向上を図る。</p> <p>・自分の考えを書くための土台となる力を育むためにも、ウォームアップ等で会話力をつけるとともに書く力につなげる。</p>

宇都宮市立 旭 中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学びに向かう力や自ら学ぶ力に対する項目では、県や市の平均を上回っているものが多く意欲が感じられる。特に「本やインターネットを利用して、勉強に関する情報を得ている」の設問では、県が57.8%、市が60.2%なのに対して、本校では65.8%である。また、「学校の宿題は、自分のためになっている」の設問では、92.5%、「学習して身に付けてことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の設問では、94.4%である。意欲を高めしていくための方策をこれからも進めていきたい。

○家庭学習力に対する項目では、県が62.8%、市が63.5%に対して、本校では67.7%である。特に「家で、学校の授業の復習をしている」や「テストで間違えた問題について勉強している」「宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」においては、県や市を5%以上上回っている。自主学習ノートの活用を進めている効果が表れていると思われる。さらには、学力の定着につながるよう指導していきたい。

○教科の学習においては、国語、理科、技術・家庭が好きな生徒が多い。特に国語においては、県が65.8%、市が67.1%なのに対して、本校は83.0%である。A層は93.9%でD層においても69.4%である。読書が好きな生徒が多く、学校での朝の読書への取り組みも積極的である。また、「国語は将来のために大切だ」と答えている生徒がA層からD層まで88.6%を超えており、A層においては100%である。目的意識が高い。

●社会的実践力の項目において、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と感じている生徒が多く、県は62.4%、市は67.1%に対して、本校は77.6%である。A層は67.5%、B層においては87.5%と高い。自分の考えをまとめて書く習慣を身に付けさせ、そして自信を持たせたい。そのために、授業においても日頃から意識して発問したり、ダイアリーをしっかりと活用させたりするなどの必要がある。幸いにも国語には関心を示しているため、その点は利用したい。

●「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」と感じながらも、「将来の夢や目標を持っている」の設問には、本校は69.4%と県や市を下回っている。しかし、「先生は学習のことについてほめてくれる」設問に関しては、本校は78.3%と県や市の平均は上回っている。これからも引き続き生徒のよさを認め自信を持たせていきたい。そして生徒の自己有能感を高めたい。

●平日テレビなどを見る時間が4時間以上の生徒がC層D層では32.1%もいる。また、テレビゲームを4時間以上している生徒もC層D層合わせて29.7%もいる。また、携帯やスマートフォンを4時間以上している生徒はC層D層合わせて17.3%もいる。家庭での過ごし方を学校から積極的に情報発信し、保護者とともに見直していく必要がある。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭における学習時間の確保	定期的に学習プリントを与え、学習する習慣を身につけさせる。学力向上ノート国社数理英の5冊を用意して、年間100日程度実施する。	学習時間が増え、理解が深まった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
学習した基本的な内容が定着していない。	学習する時間を増やし、基本的な内容をしっかり理解すること。	自分で学習する内容を考え、ノートにまとめさせる。自主学習ノート1冊を用意して、毎日取り組ませる。